

第12回 テレホン法話ライブ

テレホン法話1111話記念

平成30年 10月 28日

「平成最後のテレホン法話ライブ」と銘打って、前宣伝をしたおかげなのか。秋晴れの当日、各地で楽しいイベントがあったらうに、徳本寺にも県内外から、たくさんの方がライブに参加して下さいました。

電話で法話を伝えるというのは極めて制約がある。「3分間心のティータイム」と言うまでもなく、長い話ではできない。聴き手にしても、受話器を通しての声だけでは、心もとなく感じるだろう。

普段のテレホン法話の制約や短所を少しでもカバーしながら、より分かりやすく法話を伝えたい思いで、法話ライブを催している。

電話では、住職の声を聴くだけの一方通行である。原稿のまま話し、余計なコメントはできない。



ライブであれば、聴衆との掛け合いもできるし、法話の内容についての裏話などでもできる。何より法話の内容に即したピアノ演奏と映像、時には御詠歌も入る。その臨場感は電話で聴くだけより、ずっと法話に親しむ効果があると自負している。

事実、アンケート結果を見ても、ピアノ演奏に対しては、多くの方から高評価をいただいた。今更ながら伊藤智哉さんの「弾く手あまた」の鍵盤上の指のタッチのすごさを感じる。岡崎るみ子さんの御詠歌をととても新鮮に感じ、感動したという声もいただいた。多分に着物姿から際立つオーラのようなものもあったのだろう。坐禅の御詠歌のお唱えの中、参加者には椅子坐禅の体験をしていただいた。

ゲストの江戸家まねき猫さんは動物に特化したものまね芸である。これも電話で聴くようなら、魅力が半減するだろう。ライブでその身振り手振りを目の当たりにしてこそ、素晴らしさが伝わる。大いに笑わせ感心させられた江戸前の芸であった。

ライブの内容としては、将棋の藤井聡太さんや104歳のおばあさんのこと、東日本大震災のことなど8話を紹介。1話毎完結しているながら、8話全体に流れていたのは、「継続の力」ということであった。そして、ライブの4日後の11月1日に1111話目のテレホン法話が流れた。継続の象徴のように、1が7つも並んだのである。

